

1. はじめに

1-1 ビジョン策定の趣旨

本市では、第五次守口市総合基本計画（平成 23 年 3 月）及び守口市都市計画マスタープラン（平成 24 年 9 月）において、行政・文化、商業・業務などの都市機能が高度に集積し、道路・鉄道などの都市基盤が整備された都市の骨格を形成する拠点として、「守口都市核」と「大日都市核」の 2 つの都市核を位置付けています。

守口都市核においては、旧守口村が江戸期に東海道 57 番目の宿場に指定されるなど、大阪と京都を結ぶ交通の要所として、古くから生活が営まれており、また、高度経済成長期には、急激な市街化に対応し、公共施設や都市基盤の整備、さらに、京阪本線の連立立体交差化や駅前再開発事業などを進め、早くから、都市機能が集積する市の拠点を形成しておりました。

その一方、現在は、駅前再開発から約 30 年が経過し、施設の老朽化や公共施設再編に伴う跡地の発生など様々な問題に直面しており、それらに対応しつつ、「まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 28 年 3 月）」にも掲げております、若い世代の満足度向上や子育て環境の充実化など、「住んでみたい、住み続けたいまち」としてのレベルアップを図り、様々な世代の方々が暮らしやすく、魅力を感じるまちづくりに取り組んでいく必要があります。

そこで、今後 20～30 年後の将来を見据え、守口の新しい都市イメージの創出につながるような魅力、賑わい、交流が溢れる守口都市核を目指していくための指針として、また、地域、事業者、行政など多様な主体が一緒になってまちづくりに取り組んでいくためのきっかけとして、将来都市ビジョンを策定するものです。



1-2 ビジョンの位置づけ

本ビジョンは、本市の上位計画を踏まえつつも、守口都市核周辺における中長期的なビジョンとして、位置づけ、作成します。

なお、平成 29 年 3 月策定予定の「守口市立地適正化計画」とも密接に関係させていきます。

第五次守口市総合基本計画（H23.3）

守口市都市計画マスタープラン（H24.9）

守口市立地適正化計画（H29.3 策定予定）

守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略（H28.3）



守口都市核周辺における将来都市ビジョン

1-3 守口都市核周辺の位置

本ビジョンで対象とする「守口都市核周辺」は、京阪守口市駅を中心とする概ね半径500m圏内の範囲及びその周辺で、その概ねの範囲を以下に示します。

